

戦略計画 2010-2013



国際ろう者スポーツ委員会
528 Trail Avenue
Frederick, Maryland 21701 USA

'Equality Through Sports'
'Per Ludos Aequalitas'
(スポーツを通しての平等)

2010年4月

Copyright: © 2010 国際ろう者スポーツ委員会

本文書は、国際ろう者スポーツ委員会の作成・所有する。本文書は、全文ならびにその一部においても、国際ろう者スポーツ委員会の許可なく、複製または公開してはならない。

1. はじめに

1.1. 序言

デフリンピックは、ほぼあらゆる年齢、ジェンダー、身体的能力の人々に対して開かれた、感動的で活気あふれる、急激な成長を遂げているスポーツ大会です。国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）は、世界各地の104の会員国からの、何百、何千という選手、コーチ、役員たちの集まる、この名誉ある大会を監督しています。

デフリンピックを根底から支えるものは、オリンピック運動です。基盤レベルにおけるオリンピックの関与は、この高い競技性を有し、急激に成長するスポーツ大会に、尽きることのない資源を提供し続けています。その上で、デフリンピックと、認知されたその運営団体であるICSD/CISSが、オリンピックやパラリンピック、その他のスポーツ組織や一般競技者・メディアと、なぜ今もって抱合されないのか、多くの方々にとっては謎となっています。

その問いに対する答えは、近視眼的だと言わなければならないでしょう—ICSDは、この第一級の、ろう者のスポーツ大会の栄誉と伝統の上に存在しており、だからこそ、その地位と活動の成果を根付かせるべく、外交のための回路、メディア・マーケティング活動、リーダーシップ・パートナーシップの開発プログラムなど、基幹となるシステムを広めて確立すべく、前向きに行動しなければならないのです。

また、ICSDは、文化的・機能的な変革を必要としています。つまり、現在の地位を当然のものとして受け入れるのではなく、スポーツの市場において、幅広い層の人々に、感動的で充実した機会を提供する、供給者としての役割を果たすべく行動しなければならないということです。そのためには、数多くの課題に向き合わなければなりません。たとえば、ろう者スポーツに関わる人々の人口構成の変化、ろう者スポーツ改革におけるICSDのガバナンス・運営の課題、アンチドーピング活動、そして、プロフェッショナルとしての仕事をしているにも関わらず、ボランティア（ガバナンス部門）と雇用（運営部門）によってまかなわれている、この組織が抱えている資源の不足などです。

したがって、戦略的計画の導入は、ICSDの前進のために、鍵となるはずで、本文書は、初めて公式に承認された戦略計画書で、われわれの組織の発展のための一里塚となることでしょう。ここに記された戦略目的と行動は、ICSDが立案し、また準備を進めている、さまざまな実務計画と予算とによって実現に至ることでしょう。

国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）がその将来像を実現し、使命を成功裏に遂行するために不可欠な、この戦略計画書2010-2013における、4つの戦略目的を達成しなければなりません。これらの目的は、ICSD経営チームと上級委員会の現行の取り組みを取り入れて、2009年11月に英国・ロンドンで構想されました（付録Aをご参照ください）。

この計画書は、ICSDの目的と課題を総合的に述べた文書として、すべての人に読んでもらうべきものと、ICSD上級委員会によって推薦を受けています。ICSD内部のすべての人が、この文書を共有し、2010年から2013年にかけての、われわれの戦略目的の実現に向けて、前向きに行動してもらえよう、強くお願いいたします。

クレイグ・A・クローリー MBE
委員長

1.2. 国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) - 歴史概要と情報

サイレント・ゲームズという名で知られる、第1回目の大会は、1924年に開催され、障害を持つスポーツ選手のための世界初のスポーツ大会となりました。夏季大会の参加者は、過去10年の間に急激に増えています。

1924年の、フランスのパリで開催された大会には、9ヶ国から148名の選手が参加しました。2009年、チャイニーズ・タイペイの台北で開催された第21回夏季デフリンピックでは、77カ国から2,493名の選手が参加しています。

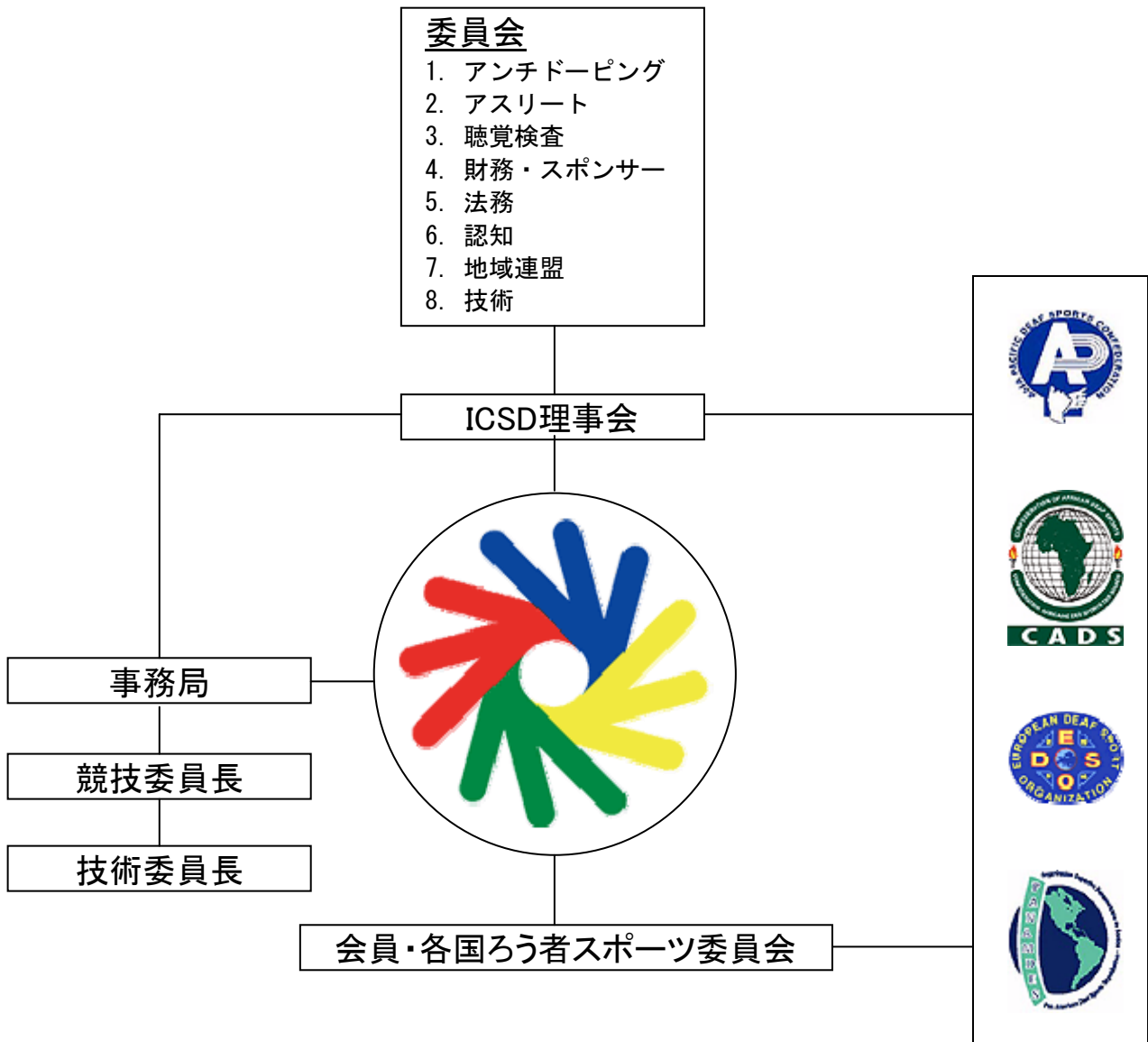
現在、104の各国ろう者スポーツ連盟が、国際ろう者スポーツ委員会 (ICSD) の会員となっています。

特記すべきICSDの特長には：

- 法的に登録された真正のスポーツ組織である
- 現在の会員国は104以上にのぼる
- 長期にわたって確立された憲章と細則を有する
- 高度に定められた技術ルール、ならびに技術委員長を擁する
- WADAの定める義務に基づくドーピングポリシーを有する
- デフリンピック、世界選手権、地域選手権、ユース選手権、および記録・ランキング等の、幅広いプログラムを実施

ICSDは、法務、アスリート、アンチドーピング、認知、および理事会と、互いに密接に働きつつ、かつ幅広い委員会グループを発展させてきました。ICSDには、統括的な理事会があり、全国が参加する評議員会や、さまざまな専門的委員会を監督しています。この組織体制は、組織体制表に記載されています (図1.3)。

1.3. 組織機構－国際ろう者スポーツ委員会



注：この図は、現行の組織体制に基づくものであり、将来的な改革目標を反映したものではありません。

2. 将来像、精神的価値、使命

2.1. 将来像

ろうのアスリートが、スポーツにおける卓越性を達成せしめ、世界の人々に感動と精神の高揚を与える

2.2. 精神的価値

インクルージョン- 人種、年齢、性別の如何に関わらず、ろうのスポーツ選手、役員、関係者が、率先してスポーツの場に関わること

フェアプレー- レベルに適った競技の場の提供、ならびに、ICSD、デフリンピック、世界選手権の運営の誠実性と透明性、さらに、課題の解決に向けて然るべきプロセスを経ることを可能にせしめること

卓越性- 最高レベルの競技、指導、審判の実施を促進し、組織の運営の効率性を実行し、すべての関係者にプロフェッショナルとしての、質の高いサービスを提供すること

リーダーシップ- ICSD、デフリンピック、ろう者スポーツ世界選手権の地位を高めるべく、積極的に行動し、かつ、ICSDの組織によるエンパワメントと影響力を、チームワーク、目標設定、評価、組織の発展と変革によって、最大限に高めること

信頼性- ICSDの財政と公的地位、ならびに、組織に関係する人々それぞれの関心するところを鑑みて、配慮をもって行動すること。かつ、組織とその指導者たちの行動について、説明責任を有することを自覚すること

喜び- ICSDに関わるすべての人々が、課題に向き合う手ごたえと満足感、かつ喜びに満ちた経験ができること

遺産- デフリンピックの親善の精神は、ろう者のコミュニティを高めるものである。また、IOCの賛助の下、デフリンピック運動の拡大の重要性を、広報活動によって最大限に伝えること

2.3. 使命

ろう者スポーツの改革におけるICSDの目的は、選手、役員、政府、デフリンピック・世界選手権の運営者、ならびにスポーツに関わる一般の人々が、ろう者スポーツ組織に関わることで、感動と充実を体験することが出来るようにすることである。ICSDは、世界選手権やデフリンピックにおいて、競合する場を提供し、デフリンピック運動の成長と認知を推進していく。

ろう者のアスリートが、「スポーツによる平等（PER LUDOS AEQUALITAS・Equality through sports）」というモットーを胸に、競技を通して頂点に至るべく、力を注ぐ場であるデフリンピックの精神的価値を尊重し、オリンピックの理想を遵守する。

この使命を表明する目的は：

- 夏季ならびに冬季デフリンピックの運営を、成功すべく監督するため
- ろう者のスポーツ選手に、草の根から最高峰レベルまで、スポーツと競技の機会を促進し、かつ提供するため
- デフリンピックの普及と推進に寄与する、教育的、文化的、調査ならびに科学的活動を支援し、推進するため
- 世界アンチドーピング機構（WADA）と連携し、すべてのろう者のスポーツ選手が、薬物に拠らないスポーツ環境を完全に実現するため
- 政治、宗教、経済、障害、ジェンダー、人種によって、ろうのスポーツ選手が差別を受けないため

3. ICSDの戦略目標

3.1. 組織の強化

ICSD内部に成長への機会を設けて組織を強化し、DSRならびにIOC（オリンピック）の精神を導入した、使命に満ち、強力な管理体制による、効率的かつ専門的に運営される組織を確立する。

3.2. 参画—競技・プログラムへ

ろうの選手・役員・各国が、レベルの高い競技や発展のための活動に携わることを可能にする、現行の体制を牽引することによって、デフリンピック・世界選手権・ユース選手権に、世界各地のより一層多くの参加を促す。

3.3. 市場における名声確立

パートナーとしてのICSDとデフリンピックの、名声と地位を確固たるものとし、国内外のスポーツ組織、政府、メディア、企業、観客に対して、果たすべき役割を満たす。

3.4. 高い倫理の維持

最高基準の倫理の実現、とりわけドーピング、聴力検査、共感性、管理の誠実性において、ろう文化とその基盤とに、よい刺激を与えること。

4. 受託者／取引者／パートナー

4.1. 内部

- 選手- トップレベル、国レベル、地域レベル
- コーチ- 国内・国外
- 役員- 技術委員長
- 職員- ICSD、執行委員会ならびに事務局（有給ならびにボランティア）
- 地域連盟- 4会員
- 各国連盟- 104会員
- パートナー／利害関係者／観客- ろう者のコミュニティ

4.2. 外部

- 選手の支援者- 家族、支援スタッフ
- 観客- 会場・テレビ・インターネットで観戦する個々人
- メディア／マーケティング- 印刷媒体、電子媒体、インターネット、ビデオ／DVD、広報
- 商業的パートナー- 認定用具製造者、スポンサー
- スポーツ代表機構- GAISF, IOC, IPC
- スポーツ規則に関する機構- WADA 他
- 政府省庁- 各国スポーツ省庁、各国観光省庁

5. ICSDの現況

戦略目標1： 組織の強化

2009年の現況- 2010年に向けて	2013年のあるべき姿
緒に就いたばかりの戦略的思考・計画立案	第1回ICSD戦略計画2010-2013の取り組みの結果が、改訂された2013-2017度計画に応用、実施される
ICSD戦略計画を受けて、ICSD事務局が事業計画を作成する	事業計画が軌道に乗り、機能的かつ生産性を有した持続可能な歳入・サービス・成果が生まれる
完全にボランティアによる事務所体制、重要な任務を担う少数のスタッフへの、非情なまでの業務量、業務遂行の危機と質のばらつき	業務の分散、より委譲された執行機能、有給スタッフの適切な開発プログラムへの従事
方針、規則、憲章、補則等、諸規則の重複	組織的名、構成、理事会、執行委員会、法務、諸規則の適切かつ丁寧な検討による、ICSDの再編成

戦略目標2： 参画—競技とプログラムへ

2009年の現況- 2010年に向けて	2013年のあるべき姿
拡大しているが、乱雑な世界選手権プログラム	幅広く力強い世界選手権プログラム、効果的かつ現実的な年次カレンダーの実現も含む
女性のリーダーシップ、アンチドーピングの連続ワークショップ企画	ICSDの戦略の一部としての、世界各地のろう者スポーツの発展を目的とした、ワークショッププログラム計画の確立
ユース参加の新規開拓	ユース参加の強化、ユース選手権・各国のユースプログラムの実施

戦略目標3： 市場における名声確立

2009年の現況- 2010年に向けて	2013年のあるべき姿
世界各地でのデフリンピックの名声	主要な競技組織におけるICSDの地位向上（ユニバーシアード、コモンウェルスゲームズ、アジア大会、パンアメリカン大会、ユースオリンピック等）
限られた観客・メディアの参加	独占的機会によるメディア・マーケティング戦略の実施
限定されたスポーツ組織との関係・リエゾン	100等のスポーツ団体とのネットワーク・関係の拡大
少ないスポンサー・商業活動の関与	メディア・マーケティング戦略による、幅広い事業者とスポンサーとの新規パートナーシップに基づく名声拡大

戦略目標4： 高い倫理の維持

2009年の現況- 2010年に向けて	2013年のあるべき姿
過渡期にあるアンチドーピング問題	国際・国内のドーピング管理プログラムの浸透
現行の商業的パートナーの拡大？	幅広い商業・スポンサー企業との、透明性が高く協同的なパートナーシップ
IOC評議員会を経てのICSDの名声の獲得（第39項）	ICSDが、IOCはじめ諸スポーツ組織から、全面的な認知と一般的な受容を得る

6. ICSDの向かうべき方向とは

Key Result Area 1: 組織の強化

目的	行動	実行者	達成指針
1. 戦略的思考・過程の開発	戦略計画2010-2013、年次事業計画、改正計画の実行	ガバナンス部門を含む、組織内のすべてのスタッフ	<ul style="list-style-type: none"> ● 2010-2013計画の達成項目の量 ● 2013-2017計画の作成
2. 再編成され、活気を与えられるICSD	ろう者スポーツ改革の活動、企業・ガバナンスモデルに照らした、組織の確固たる活性化	理事会ガバナンスならびに委託委員会	<ul style="list-style-type: none"> ● 親切ならびに再活性化された組織 ● ジェンダーバランスの取れた活気ある理事会
3. スタッフの認知とプロフェッショナリズム	<ul style="list-style-type: none"> ● 理事、執行チーム、スタッフの確立された役割と責任 ● 上級職の業務遂行の評価プロセス ● スタッフの業務従事と参画 	執行チーム(会長ならびに副会長)、上級チーフ(事務局長)	<ul style="list-style-type: none"> ● 専門性の高いスタッフの、合意された目的と業務目標 ● 業務遂行の評価システム運行 ● 職員構成の再編成
4. 財政強化	事業(業務)計画の準備と実行	執行チーフ(事務局長)、運営担当、財務ならびにスタッフチーム	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期支出入表、取引による利益、積立金、投資等による、年次財政データ

Key Result Area 2: 参画—競技とプログラムへ

目的	行動	実行者	達成指針
1. 力強く拡大し、効果的なデフリンピックならびに世界選手権プログラム	国際／地域レベルのスケジュールの検討と再構成	<ul style="list-style-type: none"> ● ガバナンス：副会長（世界） ● スタッフ：運営担当 ● 地域連盟ならびに各国 	<ul style="list-style-type: none"> ● 年次カレンダー
2. 地域・各国のICSDへの参画	各国レベルのコーチ・審判・参加の開発プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ● ガバナンス：副会長（世界） ● スタッフ：運営担当 ● 地域連盟ならびに各国 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界選手権へのより多くの国の参加推進 ● 開発プログラムの作成
3. ユース開発	ICSDによる、ユースの参加者を対象としたプログラム計画	<ul style="list-style-type: none"> ● ガバナンス：副会長（ユース） ● スタッフ：運営担当 ● 地域連盟ならびに各国 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各国・地域レベルのユース・学校プログラムの実施 ● 準ジュニア・ジュニア選手権を通じて、世界・地域選手権へのより多くのユースの参加

Key Result Area 3: 市場における名声確立

目的	行動	実行者	達成指針
1. スポーツ上部組織への一層深化した参画 (IOC、GAISF、WADA)	リエゾンと代表	<ul style="list-style-type: none"> ● ガバナンス：委員長 ● 執行委員会理事 ● 執行チーム ● 委嘱者 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外交的地位の獲得 ● 前向きなリエゾンと代表の深度
2. より多くの観客・メディアの参加	デフリンピックと世界選手権を、より「魅力的な」イベントとして洗練させる	<ul style="list-style-type: none"> ● 理事 ● 執行チーム ● 技術チーム ● 委嘱者 ● 外部相談役 	<ul style="list-style-type: none"> ● デフリンピック・世界選手権の観客の数 ● メディア取材と認知の拡大
3. 主要スポーツ大会での認知とインクルージョン（デフリンピック）	ロビー活動、各種組織と関係者との外交・協働的リエゾン確立	<ul style="list-style-type: none"> ● 理事 ● 執行チーム ● 技術チーム ● 競技団体 ● 外部相談役 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外交・協働的リエゾンの発展 ● 競技団体・組織からのデフリンピックの認知
4. スポーツ組織とのコラボレーションとパートナーシップ	スポーツ団体とのリエゾンと協働	<ul style="list-style-type: none"> ● 理事 ● 執行チーム ● 外部パートナー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来的なパートナーシップを築く、長期的戦略に基づく行動 ● ろう者スポーツ改革の精神による、合意に基づく制度運営と課程 ● ICSDの憲章・補則の改定を経て、スポーツ団体とのパイプを強化する

Key Result Area 4: 高い倫理の維持

目的	行動	実行者	達成指針
1. ドーピング管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 競技会中の検査 ● 競技会外の検査 ● 罰則 ● 教育 ● 管理ならびに基幹制度の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ● 執行チーム ● 委嘱者 ● 外部のドーピング管理機構 	<ul style="list-style-type: none"> ● 総テスト数内の陽性反応数 ● 罰則の数 ● 教育セミナーとオンラインプログラムの数 ● 教材、DVDの配布
2. マーケティング、メディア、商業的影響の管理	マーケティング、メディア、商業戦略の開発、サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ● 理事 ● 執行チーム 	<ul style="list-style-type: none"> ● 完成・改善された戦略 ● 内外のサービスの強化
3. 高度に発達した組織機構と、倫理・平等の実践	<ul style="list-style-type: none"> ● ICSD憲章と補則内の、主要方針の再構成 ● リーダーシップ開発プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ● 理事 ● 執行チーム ● 委嘱者 ● 外部相談役 	<ul style="list-style-type: none"> ● ICSDおよび会員国を支援し、保護する政策の改定 ● IOCから承認されたテーマによる、活気あるリーダーシップ開発プログラム

7. 総括と今後の計画

ICSD戦略計画2010-2013は、2010年1月のICSD理事会で承認され、2010年4月1日に、104の会員団体に提出された。戦略計画の活動周期は、ICSDにとって、活動に密接に関連し、現実的かつ遂行可能なものであることを踏まえ、夏季デフリンピックの開催周期と合わせることをする。

さらなる戦略的思考と行動は、ICSD内において、以下の方法で遂行を継続する：

- ICSDスタッフの大綱目標ならびに、4つの戦略計画に基づく活動として、年次運営（事業）計画が作成される予定
- スポーツプログラム年次評価ならびに報告を、執行委員会および会員国に提出
- 新規戦略進行計画を、戦略計画期間2年次末（例：2012年中旬もしくは下旬）に導入
- 2013-2017 ICSD第2期戦略計画を、2013年8月のアテネデフリンピック後に開始

付録 A

将来の方向 2010-2013

(ICSD執行委員会 戦略会議ウイークエンド、2009年11月20日-22日、英国・ロンドン)

組織構造

戦略計画

予算計画

法務

フローチャート式組織図（組織構造）

スタッフ／事務局の業務計画

目的：

レガシーに基づく、ろう者のコミュニティへの機会提供

IOCからの完全な認知

デフリンピック

世界選手権

ろう者ユース・子ども大会の知名度

国際手話の目標到達

健康

スポンサー企業／機会

さまざまな課題に関するワークショップ

女性の課題

質の高いろう者の競技会

アンチドーピング管理／規則／罰則

ガバナンス：

執行委員会スタッフの、明確な役割と責任

財務

法務

女性の執行委員の必要性

将来像／精神的価値／使命：

認知

ろう者スポーツ改革リーダーシップ

共感性／エンパワメント

卓越性

デフリンピックによる親善

公正性と平等

取引者／パートナー：（誰か？）

内部：

選手、連盟、コーチ、指導者

外部：

スポンサー

スポーツ団体／連盟

IOC

ろう者のコミュニティ

IPC

メディア

政府省庁

NOC

市町村部署

WADA